

テーマ

未来を切り拓く子

目標

地域に誇りを持ち地域を大切にする子
子どもが生きる地域イベント

今年度の取組紹介

飛鳥地区では、幼・小・中・地域の連携を軸に地域や家庭を大切にする心を育み地域に誇りを持てる子どもたちの育成をめざし活動しています。今、少子高齢化の問題等を抱える中、やはり地域行事の担い手として中学生の活躍は不可欠になってきています。そこで小中合同で行われる学校運営協議会と会議を一体化し、右図のように学校運営部、学校評価部、地域連携部、健全育成部を設け、その中の地域連携部、健全育成部の役割の中心が本協議会であります。学校運営協議会とコラボすることで、幼小中の取組の評価を中学3年生全員に対する面接を実施し、本協議会の取組成果を確認するなど学校・園の実情把握と課題を明確にした上で、各校・園のニーズに応じた支援を行える体制づくりをしました。また従来の取組を見直し、中学生の活躍の場を広げました。中学生が飛鳥地域で職場体験した経験を小学生と地域の方々とのポスターセッションし、意見交流ができました。地域防災活動においては、生徒会とコーディネーターが合同会議を持ち、中学生を防災活動における戦力とすべく彼らの防災意識を高めることが出来ました。また第14回あすかフェスティバルは、地域からの出店も数多く、学区産品（银杏、竹炭、クルミクッキー）の販売も好評でした。催し内容も第9回防災訓練を同時開催するなど多岐にわたり来場者も増えました。地元和太鼓団体や各校園のパフォーマンスもあり盛況でした。これらの活動をとおして地域の一体感を感じ合えました。

飛鳥式

学校運営協議会とコラボ

小学校・中学校・
学校運営協議会

+

地域教育
協議会

飛鳥中学校区C・S協議会

学校運営部
満足度アンケート
生徒面接
学校園への参画

学校評価部
学校園アンケート
幼小中一貫
独自の自己評価

地域連携部
飛鳥フェスティバル
アスペンピック
学区産品
地域の子ども

健全育成部
安全見守り
タペのコンサート
地域力の強化



ささえ隊事業
による面接指導
一石二鳥

協議会活動評価
のための面接
地域を大切にできる
子に育った？
地域の方の意見は？



今年度のまとめ

今年度は、小中合同で行われる学校運営協議会と会議を一体化し、飛鳥CS協議会として4部会をアクティブに機能させました。独自の評価方法を取り入れ、学校・園の実情把握と課題を明確にした上で、各校・園のニーズに応じた支援を行える体制づくりをしました。更にコミュニティ・カレンダーやボランティア募集ビラを配布し、地域人材の発掘・確保に努めました。

来年度に向けて

飛鳥CS協議会の4部会からの新たな企画・取り組みを定着させるとともに従来の地域教育協議会としての活動も深化させながら、地域の子ども達の幼稚園から中学校までの学びを支援しながら、学校も地域も共に育つ事をサブテーマに取り入れ活動していきたいです。

テーマ

飛鳥大好きプロジェクト (ADP)

目標

**地域と関わる学びの中から地域を大切に誇れる生徒を育てる
地域と学校が一体になり家庭の教育力を高め、社会で通用する力を育てる。**

今年度の取組紹介

テーマである飛鳥大好きプロジェクトも学校や地域に定着してきました。地域行事への参加も積極的で、飛鳥フェスティバル(左上写真)や交流の集いにおいて、学区産品(竹炭、銀杏、クルミクッキー)も販売し、準備から後片付けまで誠意を持って取り組んでいる為、地域からも期待され地域の戦力となりつつあります。

本年度も地域支援を頂きながら花壇整備や畑の野菜栽培に力をいれ、毎年恒例の収穫祭には、園芸部が育てた野菜で、豚汁を振る舞うことが出来き、幼稚園の園児も招待できました。特に学力向上を目指した小中一貫の「学び合い」による授業改革は、外部講師を招聘し合同研修することにより更に推進することが出来ました。小学校6年生を招いた合同授業や地域の方も含めたポスターセッションを実施することができました。また地域防災訓練にも積極的に参加し、防災コーディネーターと生徒会との合同会議を持ち、ガラス飛散防止シートを効果的に貼ることが出来ました。生徒・教師・地域の防災意識の向上に貢献できました。



今年度のまとめ

地域の方から支援を「してもらう」から地域に「何が出来る」を合い言葉に、生徒会とコーディネーター合同会議を持ち積極的に諸行事に参画しただけでなく、準備や後片付けまで地域の方と協働する内容を深化させることが出来ました。タベのコンサートや収穫祭も地域一体となる取組になってきました。またキャリア教育を軸とした小中一貫教育を推進するとともに「学び合い」やポスターセッション等の新しい手法を展開し、飛鳥中学校区CS協議会とのコラボレーションを軌道に乗せる事が出来ました。

来年度に向けて

一般的な地域教育協議会とは異なり、小中一貫を狙った小中合同の学校運営委員会とコラボしたCS協議会であり、4部会を中心に地域の各団体が結集している大きな組織となりましたが、各部がアクティブに活動し、評価方法の改善、面接指導支援など新しい取組が開始されました。生徒も教員も地域も新たな意識を持ち更なる連携と活動を深化させていきたいです。また、学区産品については、クラブ主導でしたが、今後コーディネーターと共に幼・小・地域へと広がりを持たせていきたいです。

テーマ

人との出会いを生かして、人から学ぶ飛鳥っ子

目標

飛鳥校区に生まれ生活している子ども達が、地域や保護者の協力を得ながら、自分の街を再発見し、地域に誇りをもち、地域を大切にしていける契機とする。

今年度の取組紹介

地域交流事業や世界遺産学習事業では、地域の方々の協力が得やすい校区性や、校区や周辺に世界遺産等の文化遺産が数多く、地の利を生かした取組が容易であることから、地域の方をゲストティーチャーとして迎えたり、子どもたちが地域に出向き、地域の方と触れ合ったり交流したりする活動を積極的に取り入れました。児童は年間を通じて様々な方と出会うことができ、その結果、児童は地域の方を身近に感じるとともに、コミュニケーション力の育成を図ることができました。

また本校では、地域の方にボランティアとして毎週来校いただき「お話の会」を開催しています。趣向を凝らした読み聞かせを通じた地域の方々との触れ合いは、読書に抵抗のある児童への興味喚起を促すだけでなく、コミュニケーションの力を高める場にもなっています。また、本の修理や書庫の整理作業等も随時行っていただき、そうした姿を子どもたちが目にする中で、校区に誇りをもち、地域の一員としての自覚をもたせることにつながっています。



今年度のまとめ

校区に住む方々をゲストティーチャーに迎える取組を進めた結果、コミュニケーション能力が高まるとともに、地域の世界遺産をはじめとする文化遺産を大切に考えている地域の方々の思いに触れることで、同じように地域に誇りをもつ児童が増えてきたように感じられます。

今年度は、ゲストティーチャーによって伝えられた地域のよさを保護者や他校の児童等に発信する活動をこれまで以上に取り入れてきました。ゲストティーチャーはじめ地域の方々の言葉や行動から地域への誇りを感じることで、自らもまた地域の遺産を未来に引き継ぐ役割を担う体験につながっています。

来年度に向けて

地域に誇りを持つ素晴らしい方々との出会いは、児童の生き方に直接働きかける取組となります。今後も本事業を効果的に活用し、児童が校区の素晴らしさに気づくことができるような取組を推進していきたいです。そして、子どもたち自身が先人の思いを受け継ぎ、地域を守り地域のよさを伝える担い手となれるよう取組を進めたいです。今後とも校区の人材発掘に努めるとともに、ボランティアやゲストティーチャーとして来校してもらえるよう取組を進めていきたいです。

テーマ

生き生きと明るく元気でたくましいあすかっ子

目標

—いろいろな人やもの、ことに出会い、触れ、和やかな心を持った子に—

今年度の取組紹介

- 地域の方々との温かい触れ合いを通して地域の方々を身近に感じ、地域に住んでいる喜びと誇り、感謝の気持ちを持ち、園内作品展には「あすかがすき」と絵手紙制作を展示し、飛鳥の地域が大好きと言える子どもに育ってきています。

- 地域の方による綿菓子、お餅つき、ポン菓子などを季節毎に合わせたお店が園庭にでき、親しみや感謝の気持ちが育まれました。また、今年度は夏にかき氷もしていただき、自分の好みのシロップをトッピングしてもらうなど、自分の思いを伝え、受け入れてもらう嬉しさを味わい、保護者や未就園児も招き、たくさんの人たちと触れ合える時間になっています。



- 地域のお茶の先生や地域ボランティアの方たちにお茶席の所作を教えていただく中で、落ち着いて座れるようになり、地域の方たちや保護者とともに活動する中で、回を追うごとに子どもたちの成長を喜び合えるものとなりました。



今年度のまとめ

- 「かき氷を買うときにはお金を払わないとあかん。」「地域の人、100円でいいって言うてくれるかな。」当日、「100円でメロン味を作ってください。」「分かりました。おいしいのを作りました。」と会話をしながらの楽しいひと時となり、コミュニケーションを図ることができました。
- 「おばあちゃんがお茶碗を出してくれて一緒にお茶を点ててん。」とお茶の先生やコーディネーターの方にうれしそうに話をしていました。

来年度に向けて

- 次年度も継続しながら、更に日本の文化に触れ、自分たちの地域に誇りが持てるように地域の教育力や協力を得ながら、ひと・こと・ものとの出会いを多くし、コミュニケーション力を向上させるべく豊かな体験ができる場を多く取り入れていきたいです。